



卷頭言

岡田, 泰治

(Citation)

海事資料館年報, 5

(Issue Date)

1977

(Resource Type)

other

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81005855>



巻 頭 言

海事資料館長 岡 田 泰 治

本学海事資料館は昭和33年秋、海事参考館として発足以来はや満20歳を迎えようとしております。ここに年報第5号を刊行するに際し、一言ごあいさつを申し上げます。

本資料館に収納展示されている品々は、そのまま毎夏に編成される海事調査団の先生方の苦勞と練習船深江丸の絶大なる協力とを語り伝えるものであり、また、専門員の先生方による古書目録の中から精選されたものであります。そしてその何れもが同時に、昔の海の潮騒を、あるいは、磯のにおいを今ここでいながらにして味わうことができ、荒き潮路を乗り越えて生活を支えてきた過去の海人をしのぶことのできる立派な資料ばかりであります。それらは本学でなければ収集し難い海の技術の歩みを物語るのみならず、科学の未来を包蔵暗示する貴重な遺産の数々であります。

それに関連して田中顧問先生ご執筆の「資料収集についての思い出」は心ゆくまで読者を魅了してやまない作品として本号に重みを加えるものでありましょう。また、岸井専門員をはじめ学の内外から頂戴した作品も何れ劣らず本号をもって記念号とするに足るものばかりであります。その意味でも本号は発行年度こそ前年度ではあります、実質的には本学海事資料館20周年記念号と申してよいでありましょう。

現代の海を渡って嶋の蔭に、岬の一隅に埋もれている海の資料を探し求めながら海事調査が続けられる限り、昔を今に再生させ、人類の歩んできた道、これから歩まんとする道を科学の面、技術の面に暗示しながら、この年報も続刊されていくことでありましょう。

最後にご寄稿頂いた先生方に心より感謝すると共に、関係方面に今後とも本学海事資料館の生成発展に深きご理解とご協力をお願い申し上げます。